

## オープン市場短信 (2020年4月)

2020.4.14

### ◆ 3月のCP市場動向

3月末のCP市場残高は、20兆9,268億円（前年同月比+5兆3,974億円）で、2008年（20兆2,767億円）以来の20兆円台となった。発行市場は、新型コロナウイルス対応の資金ニーズもあり、中旬以降24兆円後半を維持する動きとなり、23日には初の25兆円台を記録した。業態別残高では、一般事業法人が7兆3,802億円（前月比△2兆2,249億円）、その他金融が9兆8,401億円（同△4,951億円）と減少した。一方、金融機関が2兆2,007億円（同+4,789億円）、ABC Pが1兆5,058億円（同+3,987億円）と増加した。発行レートは、新型コロナウイルス対応の強い資金調達ニーズと投資家の慎重姿勢を受けて、月後半はレート上昇が顕著となった。

### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格)0.000%近辺~0.200% 一般事業法人(a-1格)0.000%~0.300% その他金融銘柄(a-1格)0.004%~0.100%

### 【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	3月末残高	2月末残高	増 減
一般事業法人	73,802	96,051	-22,249
その他金融	98,401	103,352	-4,951
金融機関	22,007	17,218	4,789
政府系金融	0	0	0
銀行等	3,325	3,085	240
証券	18,682	14,133	4,549
ABC P	15,058	11,121	3,937
計	209,268	227,742	-18,474

(注：買入消却分含む)

## 【格付け別の発行レート】

格 付	1か月	2か月	3か月
a-1+ (一般事業法人)	△ ～ 0.001%	△ ～ 0.120%	0.000% ～ 0.200%
a-1 (一般事業法人)	— ～ —	△ ～ —	0.000% ～ 0.300%
a-1+ (リース銘柄)	△ ～ 0.250%	△ ～ 0.200%	△ ～ 0.250%
a-1 (リース銘柄)	0.011% ～ 0.010%	0.010% ～ 0.1000%	0.004% ～ 0.1000%
a-2	0.050% ～ ケ1.00%	— ～ ケ1.25%	0.020% ～ ケ1.50%

### 《C P オペ》

C P等買入オペは、3月は3回で合計1兆4,500億円実施された。18日と26日のオファーのオペは、金融政策決定会合での追加緩和の決定を受け、それぞれ当初予定より増額された。発行市場の大幅な増加と発行レートの上昇を受けて、何れも按分レートは強含みとなり、ディーラーの強い売却ニーズを反映する結果となった。

〈月末オペ残高：2兆5,519億円〉

## 【日銀CP等買入れオペ実績】

(単位：億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
3月4日	3月9日	4,000	11,090	3,994	-0.001%	0.002%	50.2%
3月18日	3月24日	5,000	18,165	4,990	-0.001%	0.002%	48.1%
3月26日	3月31日	5,500	14,830	5,495	0.003%	0.008%	70.2%

### 《A B C P》

A B C Pは、1兆5,058億円と前月比+3,987億円増加し、前年同月比では+137億円の微増であった。

### 《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、3月末時点における発行登録企業数はエヌ・ティ・ティ都市開発が登録抹消を行ったことから、1社減の529社となった。

«C P 現先市場»

現先 (S/N) レートは運用ニーズ強く、マイナス~0 %近辺での出会いとなっていた。

#### ◆ 4月のC P市場動向

4月の発行市場は、例年では期末要因の剥落から発行再開が進み、一般事業法人では大幅増加となる。本年は、それに加え新型コロナウイルスの影響で、多くの企業で期初より積極的に発行を進めた事で、10日時点で期末残高（20兆9,268億円）から、約2兆9,000億円増加し23兆8,000億円強となっている。引き続き高い市場残高を維持し、月末残高は38カ月連続して前年同月比を上回り、過去最高水準を更新することが予想される。但し、投資家の慎重な投資姿勢から発行体との目線が合わず、減額や発行が見送られるケースが多くなるなど、発行環境はやや厳しい状態となっている。

発行レートは、期間の長い案件や大型の発行案件については、かなりレートが流れるケースも散見された。投資家と発行体のレート目線が乖離しているたこともあり、今後も方向感を探る展開が続くと思われる。

«C P オペ»

C P等買入オペは、14日と24日の2回合計8,000億円のオファー予定となっている。発行が大幅に増加していることや発行レートの上昇もあり、先月末のオペでは按分・平均落札レートがプラスレートとなったが、今月も同様な動きとなることが予想される。（注）14日のオペは、当日5,500億円に変更

«C P 現先市場»

C P 現先レートは、0%近辺での出会いを予想する。

\* 参考資料 (出所：証券保管振替機構)

【3月末発行残高 上位10社】

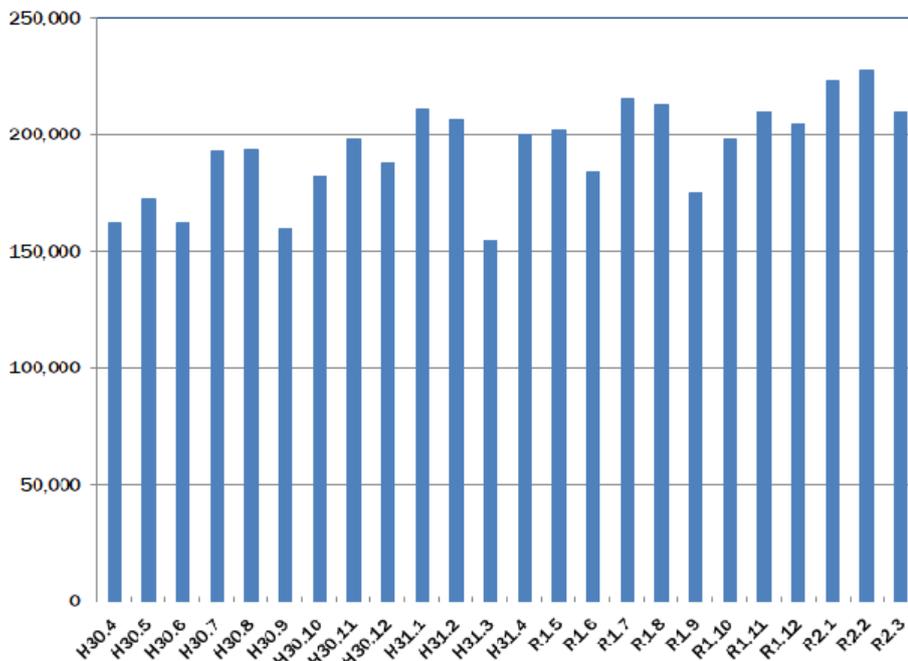
(単位：億円)

	発行企業名	3月末残高	2月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース株式会社	10,219	10,261
2	三菱UFJリース株式会社	7,621	6,000
3	NTTファイナンス株式会社	6,630	11,030
4	みずほリース株式会社	5,500	5,350
4	株式会社クレディセゾン	5,500	5,930
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	5,356	4,459
7	東京センチュリー株式会社	4,925	5,070
8	野村證券	4,630	3,190
9	三菱UFJニコス	4,600	4,300
10	株式会社ジャックス	4,220	4,205

【短期社債市場残高】

(2018年4月～2020年3月)

(単位：億円)



---

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会